

## 「連合2017平和行動in広島」派遣団報告

# 「核兵器の廃絶と世界の恒久平和を求める被爆地の願い」

## ～平和ヒロシマ集会に、全国から2,300人が結集～

凄まじい放射線と熱風、一瞬にして焼野原となった広島、そして多くの尊い命を奪った原爆投下から72年を迎えました。同じ悲劇を二度と繰り返さぬよう今年も核兵器廃絶と恒久平和を願い連合2017平和ヒロシマ集会は、8月5日（土）広島市上野学園ホールにおいて、全国各地より2300名もの多くの仲間が結集し開催されました。連合福島からは、相双・相馬地区連合の陰山議長を団長に11名で参加しました。集会に先立ち、連合福島青年女性委員会溝口剛幹事が代表して、平和の折鶴を献納いたしました。



連合2017平和ヒロシマ集会の様子



平和の折鶴を献納する溝口さん

「父は原爆ドーム近くで通勤電車の中で被爆し、やっとの思いで家にたどり着きましたが翌日に亡くなりました。」と5歳の時に被爆し40歳過ぎには体の不調が現れ、長年苦しんでこられた方の体験談。そして、高校生平和大使の高校生一万人署名やジュネーブ軍縮会議でのスピーチなどこれまでの活動報告、「核兵器の廃絶と世界の恒久平和を求める被爆地の願い」を伝える、引き継いでいく決意のメッセージ発信。最後に、平和アピール「更なる世論喚起と国際的な働きかけを強め世界平和の実現を目指していく」こと確認し、全員で「原爆を許すまじ」を合唱、集会は閉じました。集会後、原爆ドームに移動し、連合・原爆死没者慰霊式が行われ、各地元の水を持参いただいた各地区連合代表による献水、そして参加者全員による献花、御霊を慰めました。

「父は原爆ドーム近くで通勤電車の中で被爆し、やっとの思いで家にたどり着きましたが翌日に亡くなりました。」と5歳の時に被爆し40歳過ぎには体の不調が現れ、長年苦しんでこられた方の体験談。そして、高校生平和大使の高校生一万人署名やジュネーブ軍縮会議でのスピーチなどこれまでの活動報告、「核兵器の廃絶と世界の恒久平和を求める被爆地の願い」を伝える、引き継いでいく決意のメッセージ発信。最後に、平和アピール「更なる世論喚起と国際的な働きかけを強め世界平和の実現を目指していく」こと確認し、全員で「原爆を許すまじ」を合唱、集会は閉じました。



広島市主催の原爆死没者慰霊式・平和祈念式に参加

翌日は、広島市主催の原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式に参加しました。8時15分に黙祷、



平和記念公園前で、連合福島派遣団の皆さん

平和の鐘がなり、広島市長による世界の人々と共に、「絶対悪」である核兵器廃絶と世界の恒久平和の実現に向けて尽力することを宣言しました。平和集会参加者の皆さんはじめ、この悲惨な出来事を語り伝えていくことで、平和運動がさらに広がっていくことを願うものです。

暑かった広島でしたが、影山団長のもと連合福島チームとして熱き思いで役割を果たすことが出来ましたこと、参加者の皆さんに感謝申し上げます。